

## 懇談会での意見を踏まえた学部・学科の見直し、ものづくり系学部案に関わる主な論点

## 学部・学科の見直し、ものづくり系学部案に関わる懇談会での主な意見

旭川大学の公立化を考えると、新学部を設置することだけでなく、既存の学部の見直しを行うことも考える必要があると思う。

「デザイン」、「ものづくり」と「経済」、「保健福祉」とどう絡んでいくかについて、大きな改革、再編の中で、旭川大学も一緒に考えていく必要がある、小手先ではなく、長期的な視点で、文理融合やグローバル人材の育成などの考えを入れながら経済、社会福祉、ものづくりの分野を統合させた形でどのようにデザインしていくかが必要だと思う。

社会福祉系と経済・ものづくり系の2学部体制にするか、社会福祉系と経済系、ものづくり系の3学部体制にするという考え方があると思う。

短大は将来を見据えて4年制大学に移行するのかどうかを考えておく必要があるのではないかな。

新しい「もの」や「こと」を世に出すことで、新しいニーズが生み出されるという発想を大学で教えるということは挑戦的であるが、高校なども自分で考える力を教えるというふうに変化していく中で、その上にある大学は世の中を創造していくところに目的を置くというのは当然だと思う。

技術やつくり方がわかってなければ、簡単にものづくりのマネジメントを学ぶことはできない。デザイン教育における体験は技術教育だけでなく、考え、手を動かし、相手と向き合い、解決策を出していくこと、そうした経験がものづくりデザイン創造教育の価値である。

ものづくりも大事だが、まちづくり、世の中づくりといったことを考えると、創造力と連携する力を育てていく分野というのは良いと思う。

1学部2学科制にして、一方を市民の会の案にあるような地域ものづくりデザイン学科とし、もう一方を市の案にあるような社会科学的に地域をデザインするような学科とする考え方もあると思う。

短大の食物栄養、幼児教育、福祉は、デザインとの関係で活用できる要素がある。

経済学部はスクラップアンドビルドしなければならないのではないかな。

保健福祉学部の2学科が現在のままなのか、内容を変えるのか、また短大をどうするのかはものづくりデザイン学科のカリキュラムをより良い形に活かす意味でも検討する必要がある。

福祉については、地域で待遇改善をしながら必要な人材を育成させる視点が必要である。

福祉系については、専門学校等でも行っていることを考慮する必要がある。

## 意見を踏まえた主な論点

## 全体の学部等の構成に関すること

- 公立化に当たり、単に学部を新設するだけで終わりとするのではなく、新設する学部と既存学部との関係性や、長期的な視点での文理融合や人材育成などの考え方を整理した上で、学部の構成を考えていく必要がある。
- 社会福祉系、経済系、ものづくり系の学部構成については、全体を踏まえて整理する必要がある。
- 現在ある短期大学部については、公立大学における学部の構成を考えていく上で、現状のままでの公立化とするのか、4年制大学に移行することを前提にした公立化とするのかといった整理が必要である。

## ものづくり系学部案に関すること

- 高校での教育内容が変わっていくことを踏まえて、世の中を創造していくということを大学で学ぶことは妥当な考え方である。
- 創造力を培うためにデザインを中心に置き、ものづくりで技術やマネジメントを身に付けながら、課題解決手法を導き出していく経験が必要である。
- ものづくりという視点で創造力を培うだけではなく、創造力と連携しながら課題に対する解決策を見つけ出していくようなカリキュラムも必要である。
- 市とものづくり市民の会が考えるそれぞれのたたき台を合わせて、1学部2学科制にして構成するという考え方がある。
- 短期大学部にある既存学科については、デザインという視点からの活用や連携が考えられ、具体的な内容を整理する必要がある。

## 既存の学部に関すること

## &lt;経済学部について&gt;

- 社会の在り方を考えていく上では旭川にも必要とされる学部であるが、既存のまま公立大学に移行するという点では不十分である。
- これからの社会情勢などを見据え、新設学部や他の既存学部との関係性をしっかり捉える中で、大きな視点から見直していく必要がある。

## &lt;保健福祉学部について&gt;

- これからの社会情勢などを見据え、コミュニティ福祉、保健看護の2学科の内容や役割等を整理していくことが必要である。
- 社会福祉の分野を経済学や新設するものづくり系学部の視点を絡めて連携させていくことが必要である。